演題名	牛受精卵移植技術利用における経済性の検証		
発表者氏名	須田　朋子	所　属	伊那家畜保健衛生所

黒毛和種受精卵を乳用牛に借り腹移植し、生産された子牛（以下「ＥＴ子牛」）を市場等に販売している管内一農場について、牛受精卵移植技術利用による経済性を検証。調査期間は1997年４月から2002年12月まで。採卵は、この農場の黒毛和種繁殖雌牛18頭に対して延べ141回実施し、移植可能胚を771個（5.5個／回）採取。移植は、近隣酪農家14戸が飼養する乳用牛に対して延べ482回実施し受胎率は49.6％。2002年12月現在、ＥＴ子牛は180頭で、その内訳は「県内家畜市場への出荷」71頭、「管内肥育農家への販売」47頭、「死亡」26頭、「哺育・育成中」36頭。検証の結果、ＥＴ子牛１頭当たりの収益が低かったことから、今後は、①市場性の高い精液の選択、②哺育・育成技術の向上、③育種価の積極的な活用による雌牛群の整備等を行う必要があると考察。